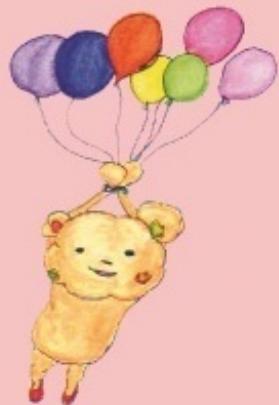


ポワットイイチこち



ホワッショウ





あるところに



っていうかすげー汚いところに
ぼわっとというくまがいました。



心配しないでください。

ぼわっとはあさをここでむかえるのにすっかりなれっこなのです。



ぼわっとはゆりちゃんのいるおうちにうわばき姿でかえりました。



ぼわっとはいえについたものの、いれてもらえませんでした。



どうやら、とちゅうでひろってきたシャダンキがよくなかったようです。



やっとおうちにはいれたころには、
いぬがねらったように噛んだところからワタができてきました。



おひるになり、だいすきな「ねことわたしとものもらい」
を夢中になってみてていたので、



ペンのためしがきにつかわれていることには
まったくきづきませんでした。



ねこのばんぐみもおわったので、あそびにいくことにしたぼわっと。

「いってきまん」とゆりちゃんにいうと



「どこかとおくへいっておいでよ、ほんとうに」と
ゆりちゃんはマンメンノエミで風船をぼわっとにくくりつけました。



そらからのちゃくちでぼわっとは
ジマンのキンニクシツなあしをくじいてしました。



すると、ちかくであそんでいたこどもたちが
ぼわっとをなかまにいれてくれました。



いつのまにか暗くなりました。



まだ、一億じゃないけれど、
もうおそいのでしかたなくかえることにしました。



こうえんをでると、さっそく
しらないヨツバライになぐられました。



おなかがすいてきたので、オチバをすべてふんでかえるモクヒョウを
なくなくあきらめました。ゆりちゃんがまってるからね。



おうちにつくと、ゆりちゃんはがっかりしたかおをしていました。
おみやげのツリカワがいけなかったのかも、とぼわっとはおもいました。



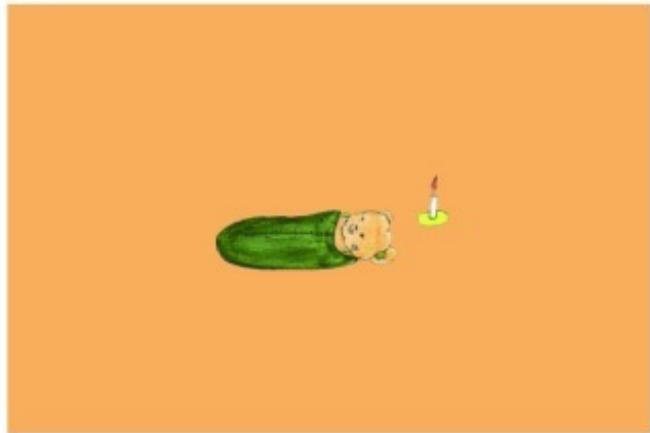
ぼわっとは、できたてのでも三日前のでもそうかわらないごはんを
イヌとならんでたべました。



そしてアシをおふろでネンイリにあらい、



じぶんのへやにいきました。



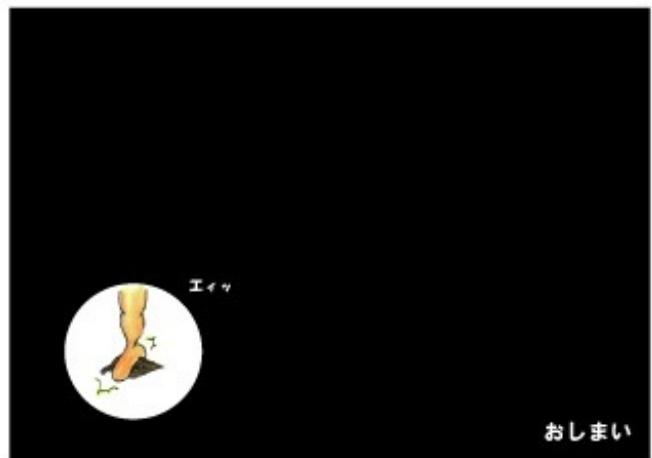
ぼわっとはいったい、どんなゆめをみるのでしょうか。



きっときっと



たのしいユメでしょうね。



おしまい